

目次

資源論

黒岩 俊郎

はじめに	二
一 資源問題とはなにか	一三
1 人間と自然・資源	一三
2 資源問題の諸側面	一八
自然の存在 資源問題の特殊性（地域性） 資源の略奪と浪費	一八
3 歴史における資源問題	二三
二 資源とエネルギー	二五
——資源問題の重要性について——	二五
1 はじめに	二五
2 水資源について	二八

3	農林・水産資源に関連して	三〇
4	骨材について	三三
5	エネルギー資源の重要性	三五
三	日本の資源問題の特徴と課題	三七
1	日本の資源問題の特徴	三七
2	日本の資源問題の課題	三八
	技術の課題	
	産業構造の課題	
	文化資源について	

資源の政治経済学

柴田 政利

一	資源問題とは	五〇
1	はじめに	五〇
2	資源問題の争点	五四
二	国際分業の性格	五八
1	民族の形成をめぐって	五八
2	国際分業をつくりあげる力	六一
3	発展途上国はなぜ不利なのか	六六
三	帝国主義と資源	
	——独占的支配の手段としての資源の独占——	七二

石油資源の現状と将来

大島 明夫

四 資源問題と経済主権 七五

1 民族自決と経済建設 七五

2 経済建設と資源の回復 七七

はじめに 八八

一 先進国の産業は石油に依存する 八九

1 一次エネルギーの変化 八九

2 先進国の石油消費 九五

二 石油の絶対量は不足する 九八

1 爆発的にふえる石油消費 九八

2 油田の数は少ない 一〇〇

3 石油需要の見通し 一〇一

4 石油供給の問題 一〇三

5 石油の究極埋蔵量 一〇四

6 代替エネルギーの準備は十分か 一〇六

三 石油資源の偏在 一〇八

1	石油資源はどこにあるか	104
2	偏在する石油	110
3	中東以外の石油の産地	111
四	石油価格のもつ特殊な性質	113
1	生産コスト	113
2	公示価格	116
五	石油産業の将来の問題点	118
1	ギャンプルに耐えられるか	118
2	石油国有化と石油資源の管理	119

日本における石炭問題

磯部 俊郎

はじめに	124
一 増加する地球人口とエネルギー資源	124
二 資源貧乏国である日本の現状と将来にたいする提言	127
三 石油ショックにあたっての各種の論議について	133
四 石炭問題のありかたについて	135
五 戦後の日本の炭鉱史の一断面	140
六 石炭産業のすすむべき道	145

電力問題——その技術と経済

川村 泰治

1 現状はどうすれば打破できるか 一四五

2 日本の石炭産業の振興策 一四七

 現有炭鉱の育成強化 閉山炭鉱のうちいくつかは復活してゆくべ

 きである 処女炭田の開発 民族資本による海外炭田の開発

3 労働力対策および技術研究 一五一

 労働力対策 技術研究

おわりに 一五四

一 電力問題の考えかた 一五六

 1 電力問題の二つの側面——安全性と経済性—— 一五七

 2 「電気」とはなにか——問題の考えかた—— 一五九

 3 電力技術における安全性と経済性の矛盾 一六二

 4 電力技術の生理学と生態学 一六九

二 電力技術の成立 一七一

 1 電気の誕生から実用化まで 一七一

 2 電力技術における矛盾の現われかた 一七四

 3 エンジン・システムにおける安全性と経済性 一七六

三	日本の電力技術の発展と電力産業	一七六
1	送電技術の進歩と企業形態	一七六
2	電力連系と電気事業の国家管理および広域運営	一八五
3	貯水池式水力発電	一八七
	——火力にかわるピーク発電——	一八七
4	石油・石炭問題	一八九
	——高温・高圧火力発電の技術と経済——	一八九
5	原子力発電	一九二
	——安全性と経済性の矛盾の焦点——	一九二
四	エネルギー問題と電力技術——今後の課題——	一九六
エネルギー産業分析		
	山口 孝	
一	エネルギー産業分析の方法	二〇四
1	企業・産業分析の方法	二〇四
	この分析の限界	二〇七
2	エネルギー産業分析の方法	二〇七
二	エネルギー産業の現況	二〇九
1	七三年までの石炭産業	二〇九

2	「石油危機」と石炭産業における業績回復のきざし	二二四
3	石油精製諸企業の概況	二二七
	七三年まで 「石油危機」直前のもうけ 「石油危機」とその後	
4	帝国石油とアラビア石油	二二九
三	「石油危機」の関連産業への影響	二三三
1	電力・ガス諸企業への影響	二三三
2	諸産業への影響	二三五
四	エネルギー産業分析	二三七
1	資本と従業員の状況	二三七
2	売上高と利益の状況	二四一
3	収益力の分析	二四五
4	蓄積額と蓄積度	二五〇
五	おわりに	二五一

あとがき

川村 泰治